
闇夜を翔ける一筋の光

島神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇夜を翔ける一筋の光

【Nコード】

N1325BA

【作者名】

島神

【あらすじ】

テンプレ的に神に殺された俺、またもやテンプレ的に転生させてくれるんだって！やったね俺ISの世界に行ってみたかったんだ。さあそれでは「闇夜を翔ける一筋の光」始まり始まり〜〜

神様って意外とフレドリ

「すみませんでした~~~~~」

「いやいやいや！なーに謝っちゃってくれてるんでせうか？てか、いきなり開口一番の言葉がそれ？」

皆さんおはろ〜皆のアイドル島神 真吏しまがみまきだよ。・・・うんオエっ、自分でやっつきながら吐き気がする次からは自重するよ・・・

ハッ！そんなことよりも

「なんで神様が俺に謝るんですか？」

「へ？なんでわしが神じゃとわかったの？」

「え？テンプレ的に？」

「いやいや、わしに聞かれても困るんじゃないが・・・まあそんなところかの」

「そうなんだ〜・・・で許すと思うか？」

「思うわけ無いじゃろ！まあそこは、テンプレ的に能力引っさげて転生させるけどの。てかこの小説転生系だし（ボン）」

「メタ発言禁止~~~~~」

はあ何だよこの爺さん（神様）メタ発言はだめだろ・・・

「いや〜すまんの〜あ、ISの世界に行くからの。して能力の方は?」

「ん〜生前、剣道してたから、剣系がいいな。・・・そだ飛天御剣流が使えるようにしといてくれ」

うん、剣をしている者にとっての夢だから!!!・・・てか何個までOKなの?

「あ〜四個までじゃな。うん」

そっか・・・よし

「次は飛天御剣流が使い続ける体と身体能力をくれ」

あれ、図体大きくないと使えなくなるからね

「次はISくれ」

うん、無いと意味ないし

「最後は年齢を四歳下げて十三にして性別もこのままで。もちろん一夏と同一年で」

「ん?最後のは、どどういう意味じゃ?」

ああ〜やっぱり分からんか?

「嫌〜剣道で勝ちまくりたいんよ」

世界大会にも出たいし

「あゝ分かったいいじゃろ！おまけとして龍閃を授けようかの、知識は小説読んでるから大丈夫じゃろ」

「あゝ、あとISじゃが速さと攻撃にとんでもなく特化した『閃光』
セカンドシフト、第二形態移行の名称は『神速』じゃ」

「……名前からしてとんでもなく速いんだな」

「ふ、愚問じゃのなんたつて第二形態移行の本気は音速の二倍じゃぞ。まあ閃光の場合は音速の0.2倍じゃが十分速いぞ」

「衝撃とかすごくないか？」

「そこらへんは、大丈夫じゃ」

「そっかならもういいや有難う」

「それじゃあ送るぞいつてこい！」

「行ってきます」

神様って意外とフレドリー（後書き）

「作者（島神）と島神（主人公）の～どうして？なぜなにタイム」

作「え～このコ～ナ～は、読者の質問にはできるだけ答えようというのがテ～マです」

島「まあ最初だから読者が疑問に思うであろうことの説明をしたいと思います」

島「え～では一つなんで俺の名前を作者と同じにしたの？だな」

作「あ～、それね話せば長いけどききたい？」

島「ああ聞きたい」

作「めんどくさいのと一回で良いからヒロインに自分の名前と呼ばれたいジャン？」

島「………それだけ？」

作「それだけ」

島「それはてめえの欲望だろうが！！てか長くねーし」

作「まあいいじゃないか。ではそろそろ終わるつか」

「感想意見なんでも待ってます（悪口は勘弁してください）じゃ

んじゃん送ってください」「

転生したけど・・・あんたってサンタ？（前書き）

主人公の能力等の簡単な説明

名前 島神しまかみ 真吏まさし

筋力 B +

速力 A +

IS適正度 SS

飛天御剣流が使える、剣道がとても強い

龍閃・宝刀であり13代目の愛刀でもある。刀の形のイメージは
斬鉄剣

主人公から一言

「応援よろしく!!」

転生したけど・・・あんたってサンタ？

うん、正直に言おうあの神間違えやがったな・・・なんてったって俺の服の中に手紙入ってるんだもん

~~~~~拝啓真吏殿~~~~~

いやすまんの、転生させる書類に珈琲こぼしてしまつての年齢を間違えてしもたんじゃよ。

あ、一夏たちとは同じ年じゃからなそこんところは心配せんでええよでは頑張つて

追伸

そこ京都で君の年齢は11歳つまり小学5年じゃな

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

おいしい、なにしちゃつてくれとんねん

「はあ、まずは住むところ探さないとな」

？「おい、その少年大丈夫か」

ん？なんか声かけられたな。と思いふと前を見ると・・・
サンタがいた

「え~~~~~、サンタ~~~~~!？」

「なんじゃ？住む場所無いのか・・・家くるかの？と言つか来い」

え？強制

「ちなみに俺の意見は？」

「答えは聞いてない」

そっすか……

ちなみにサンタは京都に住んでましたサンタ曰く「一人で全世界配れる分けないじゃろ？じゃから各県や州ごとに一人サンタがおるんじゃよ」だそうです

そして今までのこと話したら「あの駄神めが」といつていましたなんとサンタは10年に一度天界に行き会議するのだそうです

転生したけど・・・あんたってサンタ？（後書き）

「作者と主人公のナゼなにタイム」

主「まさかサンタがでるなんて思いもしなかったぜ」

作「だろ？なんでサンタって有名なのにこんな小説には一回も出ないんだろと思ってたから出したんだよ」

主「なるほど！そこは盲点だったなっとそろそろ時間が」

作「ああ、皆さん今回は短かったと思いますが許してください。では・・・」

「たくさんの意見感想お待ちしております！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1325ba/>

闇夜を翔ける一筋の光

2012年1月5日02時45分発行